

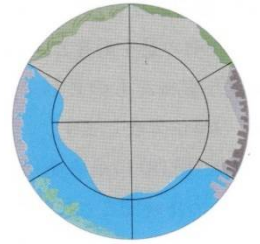
積乱雲から降ってくる直径が5mm以上の氷の粒を雹つばひょうといい、5mm未満のものは霰あられといいます。そして、雨と雪が同時に降ってきたものがみぞれです。これらのでき方はどれも同じで、空気中にあった水蒸気が水滴や氷になって雲をつくり、その中で集まったりぶつかったりして粒が大きくなったものです。

ときには、直径が5cm以上になるものもあり、農作物やビニールハウスなどに大きな被害をもたらすことがあります。

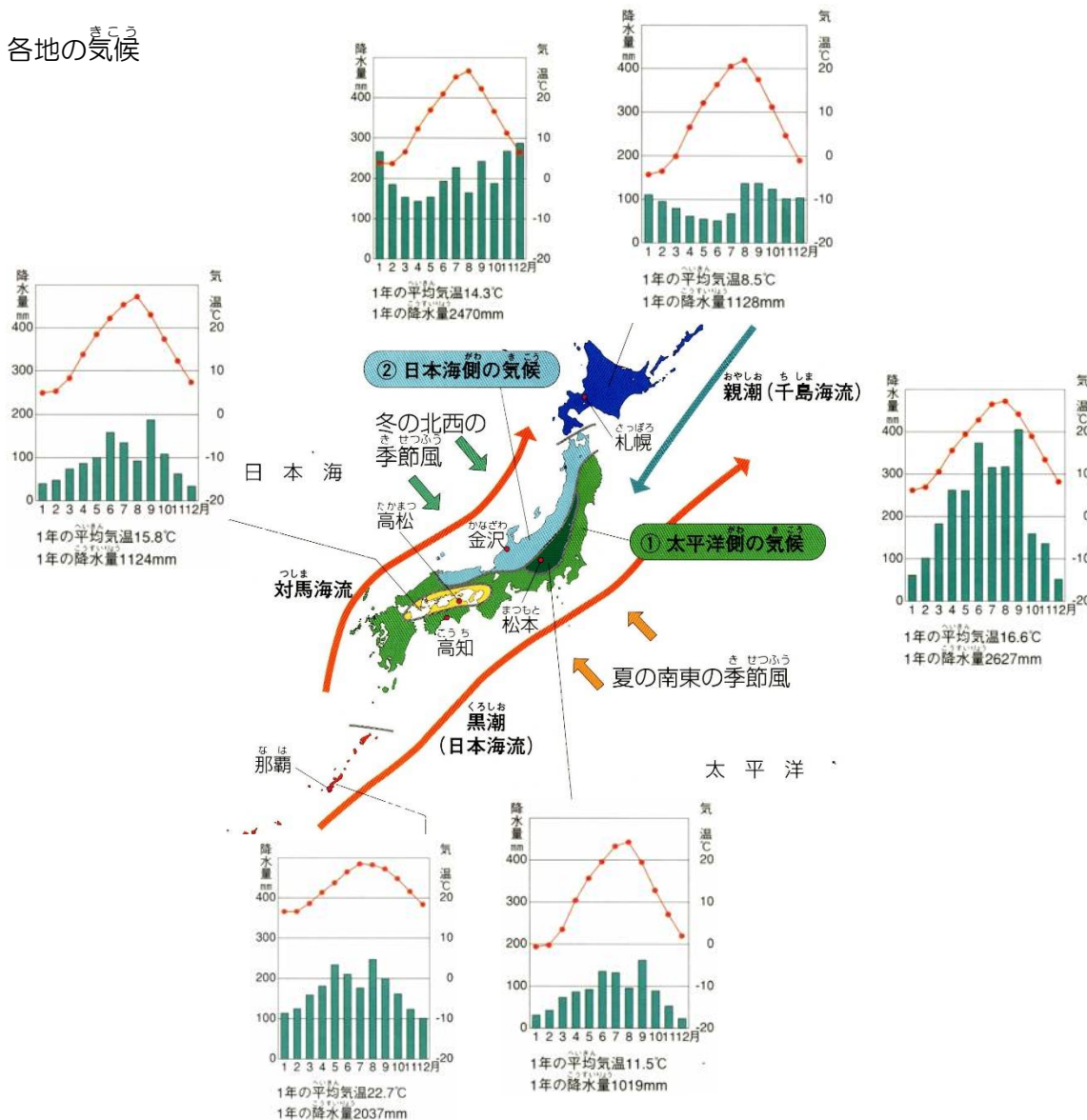
天気の種類

	快晴	晴れ	くもり	雨
ア	Ⓐ	○	◎	●
イ	○	Ⓐ	◎	●
ウ	Ⓐ	◎	○	●
エ	◎	○	Ⓐ	●

空全体を10としたときに、雲の面積が空のどれだけをしめるかを表したものを雲量うんりょうといい、雲量が0~1のときは快晴、2~8のときは晴れ、雲量が9~10のときをくもりと決めています。左の天気記号の正しい組み合わせは(1...記号)です。



各地の気候



北海道の気候

冬が長く寒さのきびしい気候です。気温が0°Cを下回る月が3ヶ月もあります。ほかの地域ほど梅雨の影響を受けません。また、一年を通じて降水量が少ない地域です。

日本海側の気候

日本海側の夏はわりあい晴れた日が多くなりますが、冬は(2…風向き)の季節風が日本海のしめった空気を運んでくるために雪や雨が多く降り、降水量が多くなります。しかし、暖流の対馬海流の影響で冬の気温はさほど下がりません。

瀬戸内の気候

四国山地と中国山地にはさまれているため、季節風がさえぎられて一年中雨が少なく温和な気候です。6月の梅雨と9月の台風の時期は降水量がやや多くなるものの、一年を通して降水量が少ないことが特徴です。

太平洋側の気候

太平洋側の夏は、(3…風向き)の季節風の影響を受けて雨が少なくむし暑い日が続く、冬は日本海側で雪をふらせたあとのかわいた(2)の季節風がふくため、かんそうした晴れた日が続きます。6月の(4…漢字で)と9月の(5…漢字で)の時期は降水量がとくに多くなります。

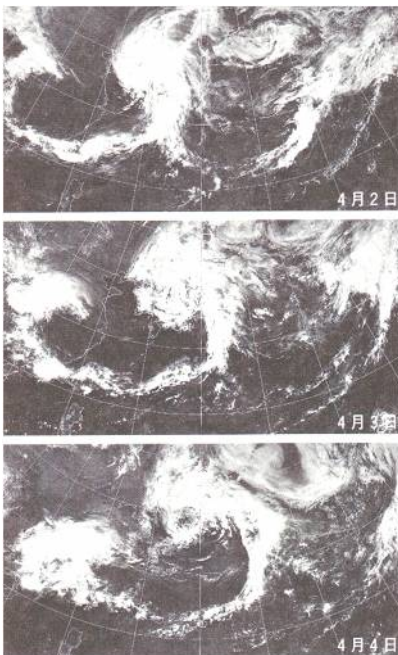
中央高地の気候

夏と冬の気温の差である年較差と、昼と夜の気温の差である日較差が大きいことが特色です。まわりを山に囲まれているためです。降水量も少ない地域です。1月と2月の気温は0°Cを下回り、地面が凍ることもあります。

南西諸島の気候

1年を通じて気温が高い地域です。台風の影響を受けやすく降水量が多いことと、気温が高いところにその特徴があります。

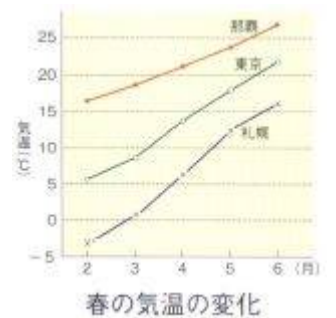
季節と天気



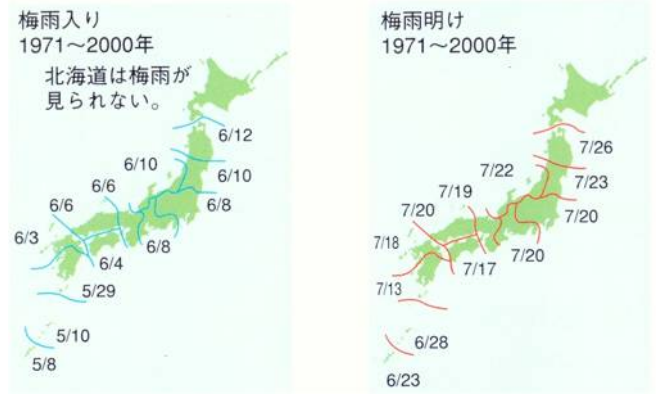
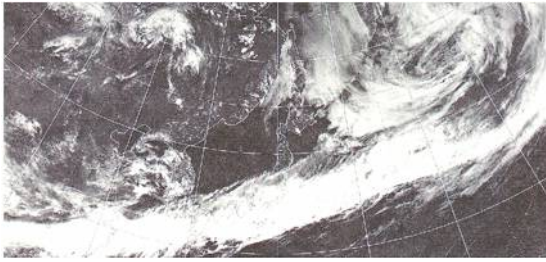
①春の天気

春は、雨雲が次々に西から東へと移動していくため、天気が変わりやすく、3~4日ごとに晴れの日と天気の悪い日がくり返されます。

また、春の訪れをつげる南寄りの強い風を(6…漢字で)といい、中国の黄河付近の乾いた砂が、日本の上空にふく強い(7…漢字で)によって運ばれてきた(8…漢字で？砂)が見られるのがこの時期です。



②梅雨



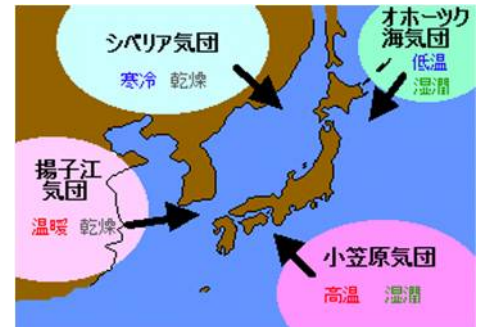
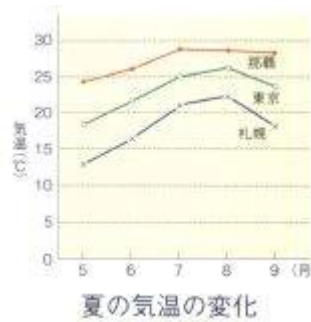
6～7月ごろの長雨やくもりの日が続く時期を(4…漢字)

といいます。これは、北の冷たい高気圧と南のあたたかい

高気圧が日本付近でたがいにおし合っって雨雲が動かなくなるためにおこる現象です。

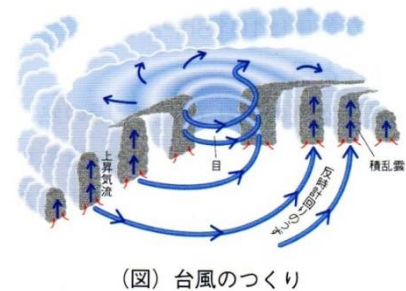
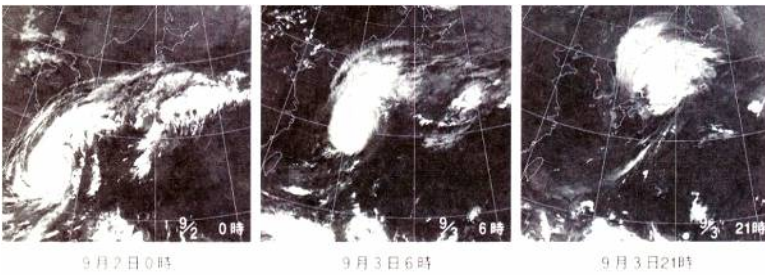
③夏の天気

夏は、南の(9…?気団)という高気圧におおわれるため、良い天気が続きますが、同時にむし暑い日も続きます。南東の季節風が太平洋の湿った空気を運んでくるためです。また、この季節には(10…?雲。入道雲のこと)が発達して夕立を降らせます。



そして、1日の最高気温が25℃以上になる日を(夏)日、30℃以上になる日を(11…?日)、35℃以上になる日を(12…?日)といいます。近年は、各地で35℃以上になる日が増えてきています。

④台風



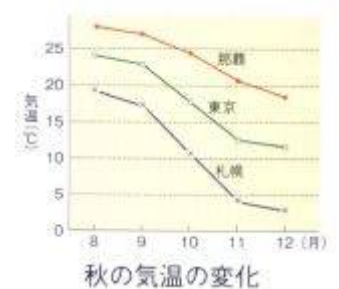
熱帯地方で発生した(13…?低気圧)が、海水からの大量の水蒸気をふくみながら発達し、中心の風速が毎秒17.2m以上になったものが台風です。台風の中心には風も雲もほとんどありません。ここを(14…台風の?)といいます。

この低気圧は赤道の近くで1年中発生していますが、いつも日本まで来るわけではありません。

上陸することが多いのは、(9…?気団)の力が弱くなる8月から9月ごろです。また、台風は上空から見たときに進路の(15…右か左で)側の風が強くなるため、十分な警戒が必要です。

⑤秋の天気

秋の初め頃は「秋の長雨」といわれる梅雨のようなうっとうしい天気が続きます。10月になると、春と同じように3～4日おきに晴れた日と天気の悪い日とがくり返されます。



⑥冬の天気

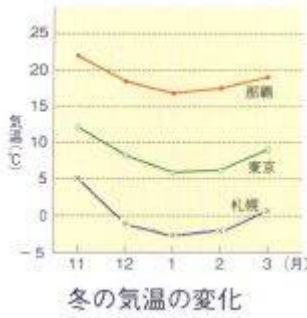
冬は、**西高東低**の気圧配置です。

(16…?気団)の冷たい高気圧からの風が、太平洋側に向かう北西の季節風が吹きます。

この季節風は大陸上では乾いていますが、日本海を渡るときに

たくさん水蒸気をふくんでくるため、すじ状の雲をつくり、日本の山脈にあたって

たくさんの雨や雪を降らせます。そのため、**日本海側は雪や雨が多く、太平洋側では雪や雨をふらした後の乾燥した冷たい風(からっ風)がふく、天気のよい日が続きます。**そして、1日の最低気温が0℃未満の日を**冬日**といひ、最高気温が0℃未満の日を(17…?日)といひます。



気象の観測

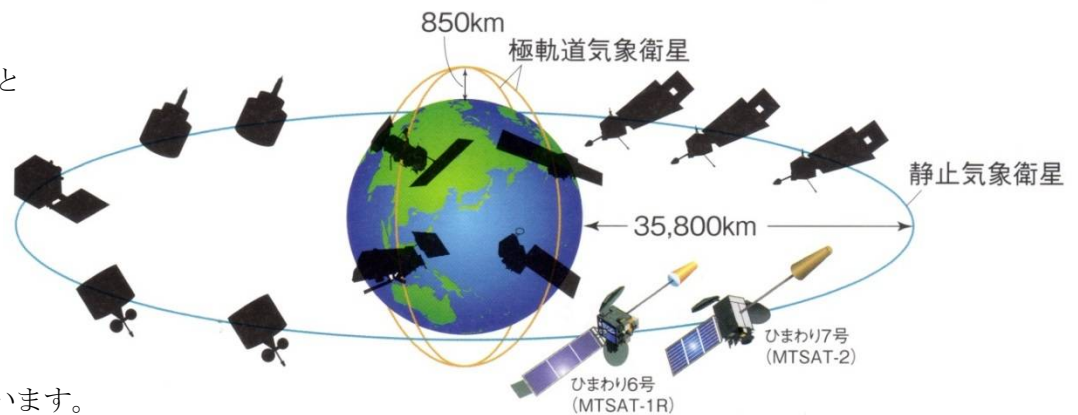
①気象衛星「ひまわり」

ひまわりは、地球の自転と同じ速度で赤道の上空36000 kmの高さを回っています。地上から見るとまるで止まっているように見えます。

そのため、(18)衛星といひます。

ひまわりから送られてくる雲の画像を

見ることによって、明日や1週間の天気を予想することができます。また、ひまわりは画像を地上に送るだけでなく、雲の高さや上空の風の状況、海水の水温の分布などの、台風や低気圧の動きをつかむための情報も送ってきています。



(図9) 地球を観測している気象衛星

②(19)

日本全国にはりめぐらされた**地域気象観測システム**を(19…カタカナ)といひ、ここから送られた**気象データ**は東京(気象庁)に集められています。このシステムは、気象災害の防止・軽減に重要な役割を果たしています。現在、無人観測所は全国に約1300ヶ所もあり、降水量に加えて、**風向・風速、気温、日照時間**も観測しているほか、雪の多い地方の約290か所では**積雪の深さ**も観測しています。



また、雲は西から東へと移動しますから、1日後の東京の天気を知るには、現在の時刻での(20…地方名)にある雲のようすを、半日後の東京の天気を知りたいときは、(21…都市名)あたりにある雲のようすを見ると天気の予想ができます。